

高付加価値品を生む イタリア型の経営

中小企業の生き残り策などについて
話す森永卓郎氏＝岐阜市長良、岐阜
グランドホテル



「中小は手本にして」森永氏講演

アを手本にすべきだと主張。その上で「日本に比べイタリアは現場への権限委譲が進み、経営者も暗くならない。日本企業はこの2点を乗り越えれば、高付加価値経営に切り替えることができる」と語った。

岐阜信用金庫の取引先経営者でつくるぎふしん青年重役会岐阜支部は、講演会を岐阜市のホテルで開いた。経済アナリストで独協大教授の森永卓郎氏が

「中小企業の今後と日本経済」と題して講演した。

約200人が参加。森永氏はアベノミクス効果で、東京はバブル

の雰囲気にも包まれてい一方、「地方の中小企業経営者から景気回復の実感がないとの声がある」とし、格差が拡大している現状を指摘した。

こうした中、「競争に巻き込まれない企業が勝つ」と述べ、中小企業が生き残るには高級スーツなど高付加価値品を生産するイタリ